



第35号

平成24年 7 月

発行 高知厚生病院  
広報委員会

## ◆ 高知厚生病院の理念・基本方針 ◆

### 理 念

私たちは、安全かつ質の高い医療を提供し、皆さまに信頼される病院を目指します。

### 基本方針

1. 患者さまとご家族、更に地域の皆さまの幸せのための医療を実践します。
2. 患者さまの権利を尊重し、真摯かつ温かい態度で接し、心と心が通い合う医療を実践します。
3. 自己研鑽に努め、更に発展向上を目指します。
4. 地域の医療機関や施設と連携し、効率的な医療を目指します。
5. 地球環境に留意し、災害への備えを怠りません。

## 過去・現在・未来

(その1)

副院長 山口 龍彦



### ☐ 昔話もしてみよう（まえがきに換えて）

高知厚生病院にホスピス緩和ケア病棟（以後ホスピス）が開設されたのは 1995 年 9 月のことである。阪神淡路大震災の年であったから、時間はそれなりに過ぎ去っている。しかし、ずっとこのホスピスで患者さんやご家族の皆さま方と悲喜こもごもをご一緒させていただいている私には、つい昨日のこのように思われてしまう。皆も当然知っていることのような感じがして、当時のことはあまり語ってこなかった。

ところが先日、私の感覚は修正したほうがいいと思うことがあった。がんなどの症状やさまざまな苦しみを和らげる医療の情報を交換する日本緩和医療学会の第 17 回年次学術大会が神戸で 2 日間にわたって開催され、私も数年ぶりに参加させていただいた。広大な会場いっばいに約 8 千人が参加し、多くの若者たちが学びを深めあうのを目の当たりにして隔世の感に打たれてしまったのだ。

何しろ、当院のホスピスが始まった 1995 年の段階ではこの学会はまだ存在していなかったのだ。日本緩和医療学会は翌 1996 年に札幌市内を流れる豊平川の畔にあるホテルを会場として開催されたのが始まりである。全国から 200 人余りの有志が集い、私も勇んで参加させていただいた。当時、この小さな集まりが、将来 17 もの会場を使用して行なわれる巨大な学会に発展するだろうとは誰一人思わなかったと思う。それなりの時が経ったのである。

そのようなことから、ホスピス開設当時の「昔話」を少しはしておいた方がいいのではないかと思います、この文章を書き始めることにした。ただ、昔話だけを語るということになる心はまだ青年のつもりの私がすべきことではないと思われて、少し抵抗があるので、現状の分析や将来への展望についても何回かに分けて語ってゆきたい。

### ☐ ホスピスってどんなところ

現代ホスピスの母はシシリー・ソンドース女史というイギリスの人である。彼女がモルヒネの使いかた

のあらましを確立し、ホスピスとは何かを世に示した。ホスピスでは、患者の体の痛みをとるとともに、家族も含めて心の痛みや様々な悩みにも対処することが決められたのである。

私がホスピスという場では何を大切に考えているのか述べてみたい。当院のホスピス設立のとき「心が穏やかに、満足して、感謝のうちに」という3つの目標を立てた。

この目標は実は私のホスピスの師である故朝日俊彦先生からいただいたものである。

心が波立っていたり、ざわざわして落ち着かない状態であれば幸せを感じることはできない。だから、幸せを感じる条件としてところが穏やかであることが大切だ。それには、まず、体の痛みをなくそう。同時に食事や排泄、体の清潔、部屋の環境などの問題にも気を配って心穏やかに過ごしていただくことを第一としよう。

次は満足していただくことだ。もちろん、入院中のサービスに満足いただくことは大切だが、ここでいう満足は人生そのものに対する満足のことだ。残された時間で今までの人生に満足していただくにはどうすればいいかって？それは聴いてさしあげること。これを傾聴という。自分の人生を振り返っていただいて、今回の人生で成し遂げたことやその意味を見つけていただく。「いい人生だったなあ」と言っていただければ、大成功なんだけどね。

3つ目は感謝のうちに過ごしていただくこと。感謝は押し付けることはできないけれど、ありがたいという気持ちは大切で美しい。感謝があるところに淋しさはないんだね。人生の貸借対照表。与えられたものと与えたもの。与えられたものに対しては感謝で返しているだろうか。



ホスピス・緩和ケアのご案内リーフレットより

## □ ホスピスの夜明け



どうして、整形外科医のあなたがホスピス医となったのですかと質問されることがある。誰の人生もそうだと思うが、人生には様々な気づきがあり、きっかけがある。多くの人たちの支えや与えて下さった影響があって今の私がある。だから、ただ一つのことを取り出していうことはできないが、今の自分の役割に舵を切るきっかけを与えたものの一つに、学生時代に会った一冊の本、エリザベス・キューブラー・ロスの「死ぬ瞬間」がある。

この本は、1969年にアメリカで出版された「死と死にゆくことについて (on Death and Dying)」という本の訳出であるが、初版本が1971年、私の持っているものは1982年に出版された第42刷である。この本は新しい訳になって、四十年以上を経た今でも途切れることがなく読み継がれ、ホスピスや緩和ケアを学ぶものにとっては避けて通れない古典となっている。本の内容は、死や死にゆくことに焦点を当て、不治のがん患者に率直なインタビューを試みた経験やその考察を書いたものである。

患者はインタビュー（というより傾聴そのもの）によってエリザベスに心を開き、心情を吐露し、癒され、和解し、そして旅立つ。死を前にして、人生の総まとめの時期を持つことができたなら、自分の人生の意味をはっきりと知ることができたなら、人は微笑みつつ死ぬことができるのではなかろうか。

当時、エリザベスのように患者と死についての話ができるとは到底思えなかったし、それが医師としての自分の役割の一部とも考えたことはなかった。自分が将来エリザベスの立場に立つとは夢にも思わなかったのであるが、この本が私をホスピスの道に進ませてくれたことは間違いない。

この本に衝撃を受け、人生が変わってしまった人を知っている。現在、ケアタウン小平クリニック院長



で在宅医として在宅ホスピス（在宅での緩和ケア）をされている山崎章郎先生である。彼は南極海海底調査船の船医として5ヶ月間乗船した経験を持つ。その時、何十冊かの本を船に持ち込んだのだが、その中に「死ぬ瞬間」があったのである。彼は、この本に心を奪われ、読んだ後は「体じゅうの血が逆流するのではないかと思うほどの深い感動を覚えた」そうである。その感覚は私も経験した。私はこの本の裏表紙に「この本との出会いを神に感謝します 1982. 11. 3.」と書いているのだが、私にはこの本との出会いは運命であったとしか思えない。

「死ぬ瞬間」に触発された山崎先生は、1990年「病院で死ぬということ」を出版した。その後、自然な流れの中で、メスを捨て、ホスピス医を目指すようになる。

彼の夢は程なく実現し、聖ヨハネ桜町病院ホスピス医長として活躍、日本死の臨床研究会や日本ホスピス緩和ケア協会の会長として重責を果たされた。

彼は、一度アメリカまでエリザベスに会いにいつている。そして、その時いただいたエリザベス手製のビスケットを食べずに持ち帰り、宝物として今もご自宅の冷蔵庫で厳重に保管しているとのことである。

エリザベスはその後、「人生は廻る輪のように」「死後の真実」などのすばらしい著作を出されたが、医療の世界で彼女はまた十分に評価されていないと私は思う。

ホスピス・緩和ケアの夜明けはシシリーとエリザベスによりもたらされたが、時代は彼女らにまだ追いついていないと私は感じている。

（つづく）

## 緩和ケアレポート

### 緩和ケアレポート①

医療ソーシャルワーカー 山下 梓

#### NPO 法人高知緩和ケア協会

#### 第11回 研究発表会

#### 第17回 豊かないのち講演会・・・に参加してきました。

平成24年5月13日にNPO法人高知緩和ケア協会主催「研究発表会」「豊かないのち講演会」に参加してきました。研究発表会では、各病院がそれぞれの取組みを発表される中、当院からは「スピリチュアルケアの小経験」と題し、副院長の山口龍彦医師が発表。また、「末期癌患者の希望に寄り添う支援と連携を行った一症例を振り返る」と題し、地域連携・緩和ケア支援室室長 岡崎奈美、外来看護主任 町田愛、医療ソーシャルワーカー 山下梓が、当院における多職種連携や情報共有の在り方について発表しました。

日頃、このような発表の機会に慣れていない私たちにとって、130名を超える人の前での発表は、大変緊張するものでしたが、皆様のご協力の元、無事に終えることができました。緩和ケアにおける日頃の患者さんへの関わりを通し、多くの学びを得たことを発表する機会をいただき、大変うれしく思います。

今後も、患者さん・ご家族一人ひとりと向き合い、その人らしさを大切にしたいと思っています。

あらためまして、この発表にご協力いただいたご遺族に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



発表者：岡崎、町田



受付まわりをお手伝いしました



### 患者さん・ご家族と かけがえのない時間をわがちあって・・・



ひと雨ごとに木々の緑も深みを増す6月、「五台山に行って花の絵のスケッチがしたい」と言われた患者さん・ご家族・ご友人と一緒に五台山の牧野植物園に行ってきました。

患者さんは、緩和ケア病棟にご入院中の佐藤文雄さん。佐藤さんは、イラストレーター佐藤月亀として個展を開催されており、高知新聞やNHKでも特集されています。今回のこの掲載については「顔写真も載せていいよ、僕って特定されてもかまわないよ」と快諾していただきました。

当初6月5日に外出の計画をしておりましたが、てるてる坊主の願い届かず…雨で中止。翌日6日の外出となりました。

体調があまり優れない中ではありましたが、「今日行かなきゃ、もう行けないかもしれない」という強いお気持ちに、ご家族をはじめ緩和ケアに関わるスタッフがひとつになり、今回の外出が実現しました。

当日はお天気にも恵まれ、前日の雨をしっかりと吸い込んだ草花は、みずみずしく咲き誇っており、これから咲こうとするアジサイも自分たちの出番を今か今かと待ちわびているようでした。



＜休憩中、皆さんと談笑する佐藤さん＞

厳しい現実と向き合わざるを得ない日々の中で、喜びや楽しみを持つ大切さを実感し、そしてこの笑顔あふれる時間を分かち合えたことをとても嬉しく思います。佐藤さん、本当にありがとうございました。どうぞ安らかに眠り下さい。

花のスケッチはできませんでしたが、とても気持ちの良い、思い出に残る外出となりました。

外出にご協力いただいたスタッフのみなさん、福井タクシーの伊東さん、ご協力ありがとうございました。患者さん・ご家族にとって、そして緩和ケアスタッフにとっても、大変貴重な時間となりました。

それから6日後の6月12日。佐藤さんは、愛するご家族に見守られながら、静かに息を引き取られました。



## 院内行事

### 大津中学生職場体験学習

看護部長 岩本 泉

5月16日、17日、18日の3日間、大津中学校の生徒さん2名が高知厚生病院へ職場体験学習に来了ました。お二人それぞれは、看護師と理学療法士を目指しているということでした。各部署の責任者が担った専門職についての説明や、当院の果たしている役割の話を熱心に聴いている真面目な姿は、とても好感が持てました。また、療養病棟と通所リハビリでは、実際に患者さんやご利用者さんと関わって、介護の体験をしてもらいました。緊張の連続で疲労困憊だったろうと思いますが、最後の日に感想を聴くと、「ますます医療の仕事が好きになった」とのことで安心いたしました。

大津中学生二人の元気と感性が、受け入れ側である私たちにも伝わってきたようで新鮮な気持ちになりました。今後とも継続していきたいと思います。



### 合同レクリエーション

ソーシャルワーカー 乾 亜矢



6月20日に3階療養病棟・通所リハビリの合同レクリエーションが行われました。

あじさい祭として、ルアナと楽しい仲間たち（エホイマイ高須教室）によるフラダンスが披露されました。

当院の居宅介護支援事業所こうせいの山下千砂さんも参加されているグループで、曲に合わせて色とりどりの衣装替えもあり、みなさん熱心に鑑賞されていました。踊りもさることながら、グループの皆さんの明るい笑顔がとても素敵でした。皆様ありがとうございました。



### 七夕まつり飾り

療養病棟



療養病棟の七夕飾りです。  
職員と、入院患者さんとで飾りつけました。  
短冊には皆さんの願いごとが…。  
その中に素敵な一句がありましたのでご紹介します。

「赤かにや  
小川にせせらぎ  
色めけり」

廣喜（102歳）

# 3分間スピーチ

## 朝の3分間スピーチより

4階 緩和ケア病棟 岡本 美穂

皆さんは、ご自分の姿勢を気にされたことはあるでしょうか？

私は今まで特に気にする事なく過ごしてきたのですが…。先日家で「最近、肩も凝るし、首も痛いし…」など独り言を言いながら家事をしていると、近くで聞いていた夫が、「お前は姿勢が悪い。猫背やき」と一言。鏡を見てみると本当に猫背の私が写っていて落ち込みました。確かに、周りを見てみると、姿勢のいい人は立ち姿もきれいで堂々としており、印象もとてもいいです。

以前、猫背を直すと呼吸が深くなり体調も良くなるという事を聞いたことがあります。椅子に浅く腰かけたり、つり革などは高い位置を持って腹筋に力を入れるだけでも効果があるそうです。

そこで、私も、猫背を直したいと背筋を伸ばすように意識はしてみるものの気を抜くとすぐに猫背に戻ってしまい、なかなか維持できません。腹筋、背筋の弱い私には大変なことで、とても根気のいる事だと思うのですが、少しでもいい姿勢を心がけ、保てるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

高知厚生病院 外来担当医			診療時間				
			午前 9時00分～12時30分(受付は12時15分まで) 午後 1時30分～ 5時30分(受付は 5時15分まで)				
			月	火	水	木	金
内 科	午前	1 診	計田 香子	副院長 山口 泰子	計田 香子	計田 香子	副院長 山口 泰子
		2 診					高知大医学部第3内科 窪田 哲也
	午後	1 診		計田 香子		外来担当医	計田 香子
		2 診		小栗 啓義			
消 化 器 外 科	午前	1 診		吉本 忠		吉本 忠	吉本 忠
	午後	1 診	吉本 忠	吉本 忠	吉本 忠		吉本 忠
整形外科	午前	1 診	院長 山口 継志郎	副院長 山口 龍彦	院長 山口 継志郎	岩津 理	岩津 理
	午後	1 診	岩津 理	院長 山口 継志郎	岩津 理	岩津 理	院長 山口 継志郎
緩和ケア (予約診療)	午前	1 診				副院長 山口 龍彦	
	午後	1 診	副院長 山口 龍彦		小栗 啓義		小栗 啓義
禁煙外来 (予約診療)	午前	1 診					(9時～11時) 計田 香子
	午後	1 診	(14時～16時) 計田 香子			(14時～16時) 計田 香子	

※ 介護保険・要介護認定等…医師にご相談下さい

※ 通所リハビリテーション…月曜日～土曜日(ご利用に関しては、医師にご相談下さい)

※ リハビリテーション科…月曜日～金曜日の午前、午後と土曜日の午前中

※ はり治療……………毎週火曜日と木曜日の午前中で予約制です

※ 緩和ケア相談……………(予約制) ※ 緩和ケア外来……………(予約制)

※ 禁煙外来……………(予約制) ※ 訪問診療(要相談)、訪問看護も行っております。

日曜・祝日・土曜午後 休診

ご予約に関しては  
病院受付までご連絡下さい

TEL:088-882-6205



当院は  
平成15年9月22日より  
日本医療機能評価機構  
認定病院となっております。



◆ 特定非営利法人  
日本緩和医療学  
会より認定研修  
施設として認定  
されました



◆ 厚生労働省より  
医師の卒後臨  
床研修施設の  
認定を受けまし  
た



夏が待ち遠しい今日この頃です。

ムシムシとする季節に体もダル～くなりますが、旬を食べて吹  
き飛ばす私です。お気に入り、枝豆、リュウキュウ、青シソ、  
ミョウガなどなど…。

皆様、旬の物、料理等、おしえてください！(A.I.)



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655  
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>